

# ながの 植物防疫

一般社団法人 長野県植物防疫協会  
 〒380-0837  
 長野市大字南長野字幅下 667-6  
 長野県土木センター内  
 電話 026-235-3510  
 F A X 026-235-3583

## 「長野県主要農作物難防除雑草対策プロジェクトチーム」活動報告

J A 全農長野 生産購買部生産資材課  
橋爪真一

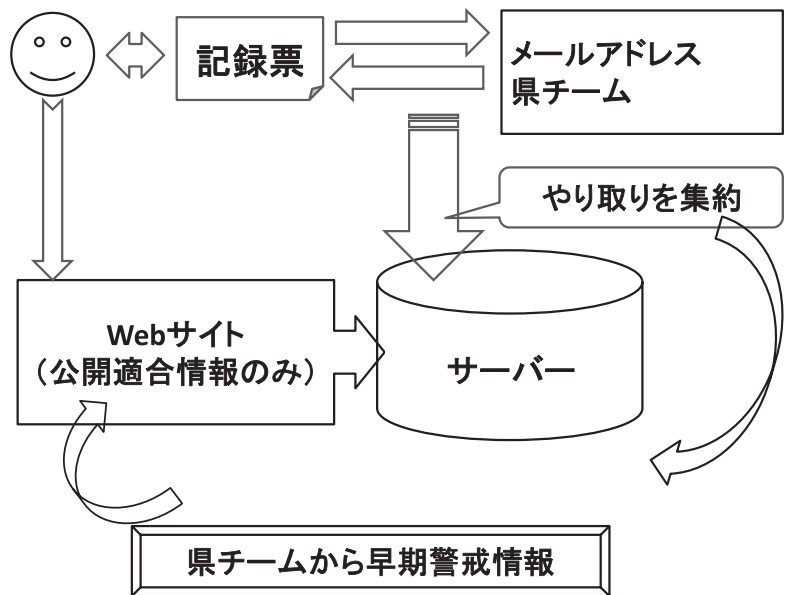
目次	
◇「長野県主要農作物難防除雑草対策プロジェクトチーム」活動報告	1
◇だれでもできる I P M(3)	2
◇セルリー斑点病・萎縮炭疽病の生態と防除	4
◇植防短信	6
◇地域情報	7
◇試験場一般公開	9
◇協会だより	10

県下各地において問題を抱えている難防除雑草は蔓延する前に、発生初期の段階から対策に取り組むことが重要になります。

長野県主要農作物難防除雑草対策プロジェクトチームでは、難防除雑草の蔓延による農業生産への被害を防ぐ対策を講じるため、発生初期段階から情報収集・共有・活用し、効率的な雑草防除を目指しています。このため下図のような体制作りを進めており、雑草情報受付窓口となるメールアドレスを設置いたしました。お困りの“変な・珍しい・知らない”雑草の情報をお待ちしております。

- ①可能な限り内容を記入し、写真などの画像を添付して情報提供をお願いいたします。
- ②いただいたメールは当面、以下のメンバーで情報を共有いたします。  
農業技術課専技、農業試験場担当者、プロジェクト事務局（J A 全農長野生産資材課）
- ③寄せられた雑草情報に対し、回答はできる限り早急に行いますが、現時点で情報が不足している事象については共同で検討させていただきます。
- ④お寄せいただいた情報は発生地域などを伏せて公開します。

メールによる雑草情報の受付アドレス [zz\\_nn\\_zassou-sos@zennoh.or.jp](mailto:zz_nn_zassou-sos@zennoh.or.jp)  
 情報をお待ちしています。



これまでに現地から 4 件の雑草情報や防除に関する相談が寄せられました。県関係機関の連携による現地とのやり取りや、相談内容に対する回答を通じて、それぞれの現地での課題解決に活用していただいています。

また、難防除雑草に困っている大豆圃場において、新たな防除方法を確立するため、対策試験を実施しています。試験を実施している圃場では、ヨウシュチョウセンアサガオ、マルバルコウやアレチウリの発生が非常に多く、圃場全体を覆い尽くしてしまう状況も見受けられています（写真 1、2）。

このような難防除雑草が甚大に発生している大豆圃場において、今年度はフルミオWDGなどの各種除草剤を用いて現地試験を実施しています（写真 3）。今後、各種除草剤の効果を検証し、難防除雑草の効率的な防除体系の確立を目指したいと考えています。



写真 1 大豆圃場を覆い尽くすヨウシュチョウセンアサガオ



写真 2 大豆に絡みつ়マルバルコウ



写真 3 各種除草剤による試験圃場

## だれでもできるIPM(3)

農業技術課 副主任専門技術員 豊嶋悟郎

シリーズ最終回は、現地で取り組んでみたいIPM技術について紹介したい。

前 2 回で紹介した技術と比べると一段階上の取り組みとなるが、様々な技術を矛盾なく取り入れていくという観点からは、有効な技術である。

### ○水稻のプール育苗

育苗期には様々な病原菌により苗が枯れる苗立枯病が発生する。この防除にプール育苗が効果的である。プール育苗を行うと水中では苗立枯病の病原菌の活動が抑制されることや、水分が潤沢にあるため萎凋しにくいことが、発生軽減の要因と考えられている。苗立枯病防除では培土の消毒が必要だが、プール育苗では土壌消毒が不要となり、減農薬栽培の方法としても利用されている。

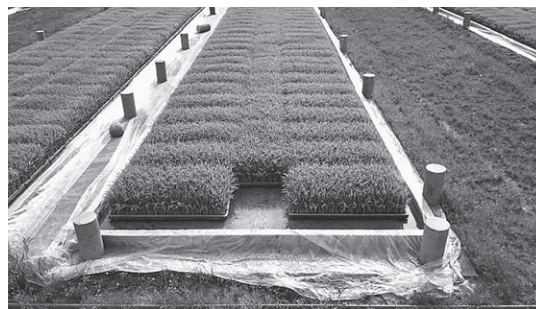


図 1 水稻のプール育苗

### ○クroppナビによる発生予察

クroppナビとは葉いもちの発生予察に使用する監視装置である。気温センサ、雨量計、濡れセンサが搭載されており、圃場の環境条件を観測し、葉いもちに感染しやすい条件になっていないかを判定する。感染好適条件が明確になることで、適切な時期に農薬散布ができる。出穂期や成熟期などの生育予測にも利用できる。



図 2 圃場に設置されたクroppナビ



○要防除水準の活用

水稻の病害虫研究は、明治期から行われており、様々なデータが蓄積されてきている。イネミズゾウムシやイネツトムシ（ニカメイガ）では、発生密度と被害程度の関係が明らかになっている。そのため、要防除密度に達した場合のみ防除を行う。

イネミズゾウムシ：畦畔際100株のイネを見取り調査し、成虫個体数が株あたり 1 頭以上の場合に防除する。

イネツトムシ：8月上旬にイネ100株を調査し、株あたり幼虫個体数（ツト数）が0.3頭以上の場合に防除する。

○トラップを活用した防除適期の把握

殺虫剤の効果を最大に引き出すには、害虫の発生状況に応じて防除を実施することが肝心である。しかし、様々な種類の害虫の発生状況を把握するには、非常に労力がかかる。

比較的簡単に害虫発生状況を確認する方法として、いくつかのトラップが実用化されている。害虫の種類に応じて有効なトラップを利用し、発生状況を把握したうえで適確な防除を行う。

フェロモントラップ：合成フェロモンを利用して、特定の害虫だけを誘引する。

有色粘着トラップ：黄色や青色の粘着板を設置し、特定の色に反応する害虫を誘引する。

ライトトラップ：走光性を利用して、害虫を誘引する。目的外の様々な昆虫が誘引される欠点もある。

粘着バンドトラップ：両面テープ様のものを枝に巻き付けることにより、カイガラムシなどの歩行型の害虫を捕殺する。

○フェロモン剤の利用で害虫密度の抑制

殺虫剤散布に過度に依存しない防除として、害虫の性フェロモンと同様な物質を空气中に拡散できる性フェロモン剤を、果樹園や野菜圃場に広く設置する方法がある。これにより雌雄の交信が攪乱され、出会いが減ることで雌の交尾率が低下し、次世代の幼虫が減少する。

ただし、フェロモン剤による交信攪乱防除で害虫



図3 なしに処理された性フェロモン剤

の発生がゼロになるわけではないので、必要に応じて殺虫剤による補完防除を行う。

○温水を利用した紋羽病の治療法

りんごやなしの紋羽病を引き起こす白紋羽病菌、紫紋羽病菌は、30℃以上の地中温度に一定時間さらされると死滅する。これを利用して罹病したりんごやなしの樹を治療可能である。ただし、核果類ではこの処理により障害が生じるので利用できない。

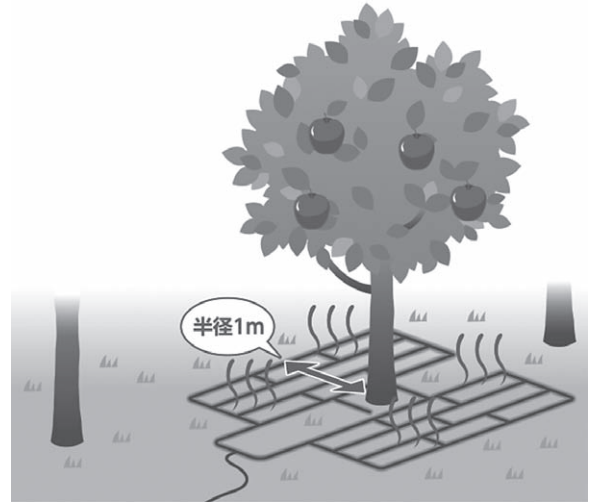


図4 温水処理のイメージ図

○土着天敵の活用

他作目と比較して生物相が非常に多様な果樹園では、害虫を捕食または寄生する土着天敵が存在する。土着天敵は害虫の発生を緩やかにして、大発生になるのを抑制できるが、殺虫剤が多用されるとほとんどいなくなってしまう。カブリダニ類を活用できたりんご園では、ハダニの防除をしなくてすむ事例も見られている。

施設野菜では土着天敵の利用は困難だが、導入天敵の農薬的使用が可能であり、ツヤコバチ類、アブラバチ類、カブリダニ類などが利用されている。

○小型ボイラーを利用した簡易熱水土壤消毒

75℃の熱水を土壤に点滴注入することで、土壤中の病原菌を殺菌する方法である。かびによる病気には効果が高く、フザリウム病や菌核病には力を発揮

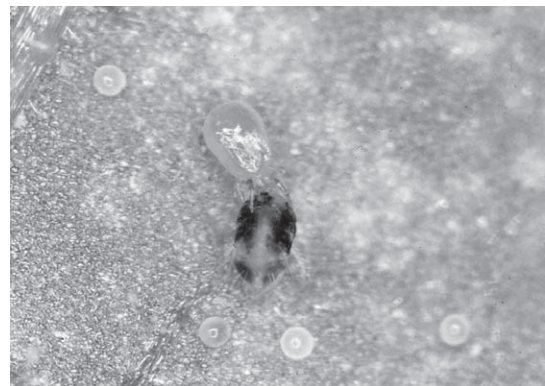


図5 土着天敵のカブリダニによるナミハダニの捕食

する。一方、熱に対して耐性のあるバクテリア病害や土壌深層部にまで存在する青枯病には十分な効果が発揮されないケースが多い。

#### ○レピガードによるオオタバコガ防除

オオタバコガなどのヤガ類は、夜間に活動する。そこで、圃場に光を照射して、ヤガ類に昼間と錯覚させ、産卵活動を抑制する防除方法である。殺虫剤散布と組み合わせることで、より高い防除効果が得られる。レピガードはヤガ類の活動を抑制する効果の高い波長を選択的に発光しているので、作物や周辺環境への影響を少なくできる。

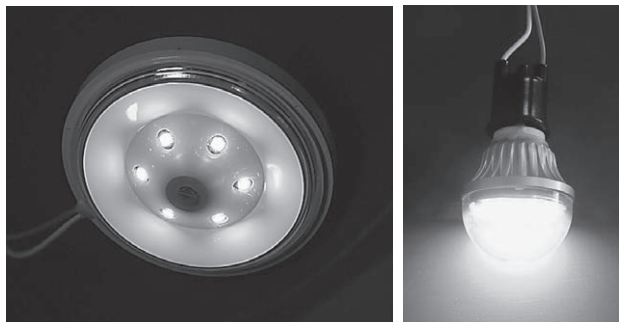


図6 レピガード(左)とレピガードシャイン(右)

○露地アスパラガスの茎枯病防除に有効なIPM体系  
春の収穫前：前年残渣の処分と畦面の罹病残渣茎処理

立茎開始直前：罹病残渣の抜き取り回収。地表面での残渣刈り払いと畦面への盛り土。

立茎開始後：薬剤散布。畦面および通路への敷きわら被覆。立茎数整理による株元の通風確保。

株養成期：定期的薬剤散布。発病茎の抜き取り、圃場外への持ち出し。夏秋芽の収穫。

株養成終了後：地際からの刈り払いと残渣の圃場外への持ち出し。

○環境にやさしいレタス害虫の防除

レタスでの害虫被害は、おもにナモグリバエ、アブラムシ類、チョウ目害虫によりもたらされる。なかでもナモグリバエは難防除害虫となっている。一方、野外にはこのナモグリバエに対する土着天敵(イサエアヒメコバチ、ササカワハモグリコマユバチなど)が広く生息しており、ナモグリバエの密度を抑制している。これらの土着天敵に悪影響を与えない農薬を体系的に利用することで、土着天敵の能力を活かした効率的な害虫防除ができる。



図7 イサエアヒメコバチ(左)とササカワハモグリコマユバチ(右)

## セルリー斑点病・萎縮炭疽病の生態と防除

野菜花き試験場 山岸菜穂

長野県は、全国一のセルリー産地である。特に夏秋期の全国流通量における本県シェアは約7割を占めている。長野県植物防疫史には「明治40年ごろに東筑摩郡和田村(現：松本市)で始まり、その後大正の初めから諏訪や南安曇郡(現：安曇野市、松本市)の篤農家により苦心して栽培研究された」と記載されている。この記載のとおり、高い栽培技術を要する代表的な品目であり、特に十分な灌水と施肥が不可欠である。収穫までに150～170日を要する長い栽培期間において、病害の発生を抑えるためには病原菌の生態を知り上手く防除する必要がある。そこで、本県で問題となる斑点性病害(斑点病、萎縮炭疽病)の発生態と防除のポイントについて記載する。

なお、詳細な内容は平成25年度普及に移す農業技術「夏秋作型セルリーの種子伝染性病害(萎縮炭疽病、斑点病)防除の手引き」として公表している。本手引きは、防除の背景である病原菌の発生態を踏まえて防除に取り組めるように、病徴や病原菌の発生態などの説明も記載しているので、利用いただきたい。

### 1 セルリー斑点病

病原菌は糸状菌 *Cercospora apii* Fresenius で、葉に灰褐色の斑点を生じ、進展すると病斑の周囲が黄化し(図1)、茎にも条斑を生じる。



葉の斑点症状 病葉の黄化  
図1 セルリー斑点病の病徴

長野県のセルリー栽培で最も問題となる病害であり、昭和26年頃には防除薬剤試験の取り組みが始まっている。現在も恒常的に発生が認められており、試験場においては、薬剤の登録にむけた試験を毎年継続して実施している。

#### ○発生態



発病適温は25～30℃。高湿度条件で発病が助長される。種子伝染と罹病残さが主要な第一次伝染源である。主に下葉から発病が認められ、病斑上に形成された分生子（胞子）が飛散し、二次伝染を繰り返すことで蔓延にいたる。本病は、全身症状を呈することはないが、激しく発病すると生育が抑制される。

○防除のポイント

発病をできるだけ低いレベルで抑え続けることが最も大きな防除のポイントとなる。そのためには、①種子消毒の実施、②育苗期からの体系的な防除、③芽かき時などにおける発病葉の徹底除去を行う。

2 セルリー萎縮炭疽病

病原菌は糸状菌*Colletotrichum nymphaeae*(Passerini) Aaで、新葉に激しく生じるえそ斑点株葉の奇形が特徴的な病徴である（図2）。



えそ斑点 株の奇形  
図2 セルリー萎縮炭疽病の病徴

平成23年に長野県で初めて発生が報告された（平成22年度長野県病害虫発生予察特殊報第7号）病害である。夏秋作型で発生が多く、生育の後半に株全体の奇形を伴う症状が多く認められる。育苗期には、

芯葉にえそ斑点が生じる症状の発生も認められている。

○発生生態

発病適温は24～28℃。高湿度条件で発病が助長される。分生子（胞子）の飛散は灌水により助長される。セルリー夏秋作型は、発病に好適な温度条件であり、さらに栽培期間を通じて灌水されることから、本病の発病リスクが非常に高い環境である。

種子伝染が主要な第一次伝染源である。

○防除のポイント

本病は、芯葉へのえそ斑点～株の全身症状を呈するため、発病株は株全体を除去しなくてはならない。防除のポイントは、病原菌を植物体に感染させないことである。そのためには、①種子消毒の実施、②発病株の除去徹底が必要である。

3 種子消毒方法

環境に配慮した種子消毒方法として、温湯を用いた種子消毒技術を開発し、普及している。具体的には、セルリーの種子を50℃の温湯に30分間浸漬すること（図3）で、セルリー萎縮炭疽病、斑点病に対する防除効果が得られる。また、処理直後に播種した場合には、発芽率に影響は認められていない。

4 セルリー斑点病・萎縮炭疽病の体系防除方法

以上のようにセルリー斑点病、セルリー萎縮炭疽病の発生生態をふまえた体系防除方法を整理すると主に以下の4点となる。

①播種前にセルリーの種子を温湯種子消毒し、第一次伝染源を断ち切る。

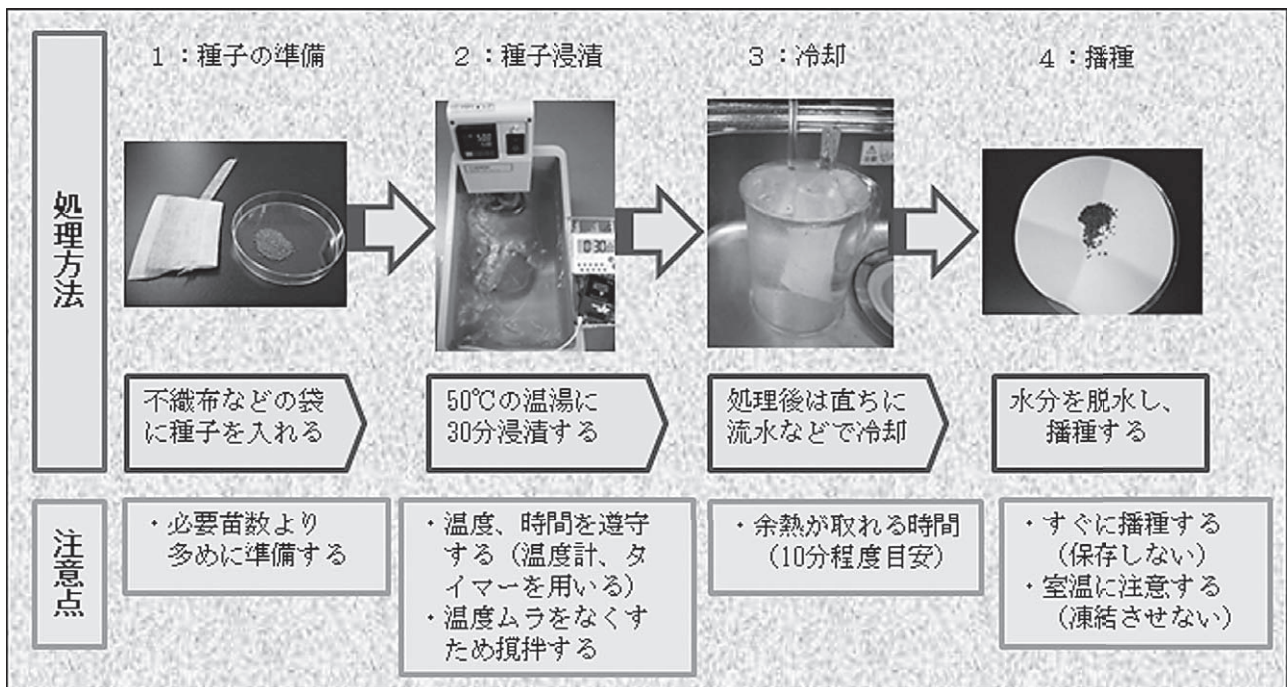


図3 温湯種子消毒方法

- ②育苗圃場や定植圃場の罹病残さや雑草は除去し、育苗・定植に備える。
- ③斑点病防除薬剤の散布は育苗期から予防的に行い、特に芽かき後は軟腐病の発生が増加するため、軟腐病防除も考慮して薬剤を選択する。
- ④セルリー萎縮炭疽病は、発病した株全体を除去し、処分する。セルリー斑点病は、芽かきの際に発病葉を徹底的に除去し、処分する。

## 5 課題と対応

セルリーで利用できる薬剤の登録拡大のため、長

年試験を積み重ねてきているが、使用できる薬剤数が十分な状況とはいえない。このような状況において耐性菌が発生した場合は、防除体系の組み立てが困難になると予想される。薬剤の使用にあたっては、耐性菌の発生を防ぐため、F R A Cコードを参考に同一系統の薬剤は連用・多用しないことを広く周知していきたい。

今後も、天候の急激な変化により病害防除技術の工夫が重要となると考えられる。関係機関と協力し、登録薬剤の拡大、防除技術の開発に取り組んでいく予定である。

# 植防短信

## 果樹試験場公開セミナーを開催しました

果樹試験場では、当試験場で行っている試験研究成果の一端を、農業者をはじめ広く県内の皆さんに紹介するために果樹試験場公開セミナーを開催しました。本年は7月30日午後に農業試験場技術館講堂において開催し、農業者・メーカー等33名の他、学生等を含めて79名の皆さんに聴講いただきました。第一部では果樹試験場の各部職員による3題の講演（リンゴ新わい化栽培の点滴かん水技術、プルーン新品種の特性、薬剤抵抗性病害の防除法）を行いました。薬剤抵抗性病害の防除法の講演は近藤主任研究員が行い、①薬剤耐性菌とはどのようなものか、②なぜ今耐性菌が問題となっているのか、③殺菌剤の作用機構や作用点による分類について、④県内で発生した果樹病害の耐性菌について、⑤耐性菌対策をふまえた防除の考え方の5項目について系統だっ

た内容の濃い発表がなされました。発表後の質問では、リンゴ炭疽病の効率的な防除法を教えてくださいと言った質問が出されました。

本年は第二部で試験圃場の視察も行い、暑い日でしたが、大勢の方が熱心に見学され、プルーンの裂果性、授粉専用品種の果実管理、新品種の着果管理等について質問が出され、有意義なセミナーとなりました。

(果樹試験場 加藤秀一)

## なし栽培の省力化・軽労化に向けた 現地検討会が開催されました

南信農業試験場では、ジョイント栽培の導入や新型防除機、作業補助器具を活用した省力化・軽労化をめざした共同研究に取り組んできました。8月4日に飯田市の現地ほ場において、成果の説明会が開催され、100名程の参加がありました。

ドリフト軽減ノズルを装着した平棚用スピードス



果樹病害に関する講演風景



散布量3割減による防除体系が実証されました



プレーヤを使用し農薬散布量を3割削減した防除試験では、慣行機と同等の薬剤付着があり、ナシ黒星病の発病率は慣行区と同程度に抑えられており、削減効果が実証されました。

この他に、自動走行車、アシストスーツ、電動ハサミ、電動結束機の利用による2割程度の省力、軽労化の効果について実演しながらの説明が行われました。

(南信農業試験場 島津忠昭)

### 「かき」の栽培管理研修会の開催

平成25年の春に、昭和62年以降では、過去3番目の規模の凍霜害が発生し、NOSA Iでは、共済の対象となっている「りんご」「ぶどう」「なし」「もも」の4樹種について、約8億の共済金をお支払しました。

当時、被害の大きかった、「かき」について、栽培者・農業団体等から「かき共済」実施の強い要望があり、これを受けて、NOSA I団体では、栽培者へのアンケート調査、制度の検討を行い、平成27年産から「かき共済」の実施となりました。

NOSA I長野では、今後の適正引受・適正評価

のために、栽培管理技術の習得を目的に、「かき」の栽培管理研修会を8月6日に県下のNOSA I組合職員を対象に、高森町「南信農業試験場」で開催しました。

研修は、南信農業試験場 主任研究員 伊原 竜夫氏を講師に迎え、栽培管理の基礎、土壌管理と病虫害防除等について講義を受け、現地講習では試験場の圃場で栽植方法等の具体的な栽培管理について指導を頂きました。

NOSA I団体では、今回の研修会を契機に、栽培農家の経営安定のため、引受拡大を図っていきたいと考えています。

(NOSA I長野 事業第一課 堀込政樹)



研修会の様子

## 地域情報

### 「果樹 環境実証ほ現地検討会」を開催

諏訪農業改良普及センターでは、果樹の環境実証ほ設置事業を今年度から行っています。その一環として、7月23日、「環境にやさしい農業 現地検討会(果樹)」を開催しました。開催にあたり「根拠をもって減農薬を行う」ため、病虫害の発生生態及び、農薬の効く仕組みを理解していただくこと、また認証制度について理解を深め、新規取得者を増やすこともねらいとしました。対象は諏訪地域のリンゴ生産者の集まりである「ポムクラブ」会員中18名が参加しました。

諏訪のりんご生産者は、諏訪管内と箕輪町等の双方で栽培している方が多いため、諏訪と上伊那の2カ所を巡回しました。参加者はほ場の状況を確認し

つつ、専技からハダニの生態や病害発生仕組の説明を受け、個々の質問を通じ栽培・病虫害について理解を深めていました。

防除薬剤数・散布回数の削減には、病虫害の発生生態の理解と、病虫害の発生しにくい環境づくりが重要となります。それには「病虫害がどこにいるか」、



研修会の様子

「そこに農薬散布するにはどうしたらよいか」といった技術の確認が必要になるため、専技から、病害虫の発生生態、農薬の作用メカニズムの理解に加え、SSの使い方の研修会をしてはどうか?と提案をいただきました。

参加者からは「基礎的な勉強ができてよかった」、「またやって欲しい」、「病害虫への理解が深まった」等、次回開催の要望がありました。普及センターでは今後も継続して講座を開催していく予定です。

(諏訪農業改良普及センター 根田裕子)

### 「青年農業者スキルアップセミナー 基礎コース」について

下伊那農業改良普及センターでは新規就農者を対象に「スキルアップセミナー基礎コース」を実施し、農業の基礎的な知識や技術の習得を図っています。今年度は31名の受講申し込みがあり、開講式と第1回「農作業機械の取り扱い」を6月24日に県南信農業試験場において実施しました。講師としてヤンマーアグリジャパン(株)と(株)オートパルいいだにに依頼し、トラクター、管理機及び刈り払い機の整備と安全な取扱いについて講義していただきました。

また、第2回を農薬の特徴(農薬の種類と効果、安全な取扱い、減農薬の取り組み)について7月15日に飯田合同庁舎講堂で開催しました。まず普及センターから農薬の基礎的な知識について講義した後、管内で減農薬の先進的な取り組みを行っている農家に依頼し、取り組み内容の紹介をしていただきました。受講生からは農薬の調整方法や薬害の事例、農薬の散布適期、特別散布の実施について等様々な



減農薬の先進的な取り組み農家から学ぶ

質問が出され、農薬使用に係る関心の高さを感じました。

今後は第3回「パイプハウスの建設について(8月26日(株)トマツ本店高森工場)」及び、第4回「土づくり研修会(9月18日飯田合同庁舎502・503号会議室)」を開催する予定です。

(下伊那農業改良普及センター 片桐直樹)

### 虫見板を活用した アスパラガスの病害虫防除

上伊那地域のアスパラガスは、小型パイプハウス利用の半促成長期どりが主体で、野菜の主要品目としてJA上伊那や生産部会など関係機関一丸となって生産振興に取り組んでいます。

上伊那農業改良普及センターでは、普及活動の重点課題としてこのアスパラガスを取り上げ、低収穫園の要因の究明と改善策の普及による生産力の強化を図っています。この活動の中で、アザミウマ類、ハダニ類、斑点病の効果的な防除を進めるため、専用の虫見板をJA上伊那、全農南信事業所等と協力して作成し、昨年度全農家に配布しました。

この虫見板は、それぞれの病害虫が見やすいように、片面にスリップス類・ハダニ類用に水色を、もう片面は斑点病用に赤色を印刷し、ラミネート加工したシートで、それぞれ病害虫の写真も添えてあります。この虫見板の上でアスパラガスの茎葉や若茎を振り害虫を落としたり、疑葉を置いて観察すると、色のコントラストにより病害虫が見やすくなります。また、タイミングを逃さず防除できるよう、防除の目安となる病害虫数も記載してあります。

本年度も、栽培講習会等でこの虫見板を活用した防除について説明するなど、防除の徹底による収量増加を図っています。

(上伊那農業改良普及センター 佐原吉実)



虫見板を利用した病害虫の観察









しあわせ信州

# 平成 27 年度農業関係試験場一般公開 試験場へ行こう！

農業関係試験場では、試験場の役割を理解していただくために、ほ場や施設を皆さんに開放する一般公開を開催します。大勢の皆さんのご来場をお待ちしています。

試験場名(所在地) お問い合わせ先・ホームページ	開催日 時間	開催テーマ・内容
農業試験場・果樹試験場 (須坂市小河原) TEL:026(246)2411 <a href="http://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/index.html">http://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/index.html</a> <a href="http://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/index.html">http://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/index.html</a>	10月3日(土) 9:30~15:00	<b>「食の未来を拓く 農業新技術！」</b> <b>試験場へいらっしやい</b> ◇企画展「今後期待される新農業機械」 ◇研究成果展示 ◇農業相談コーナー ◇試食コーナー ◇農作業体験コーナー ◇果樹園めぐりツアー ◇ミニ実験体験コーナー◇みんなで遊ぼうコーナー ◇農業大学校コーナー ◇生産物販売 
野菜花き試験場 (塩尻市宗賀) TEL:0263(52)1148 <a href="http://www.pref.nagano.lg.jp/yasaikaki/index.html">http://www.pref.nagano.lg.jp/yasaikaki/index.html</a>	10月17日(土) 10:00~15:00	<b>未来につなげよう、夢に挑戦する農業技術</b> <b>- 来て見てふれて体験しよう！ -</b> ◇公開セミナー ◇パネル展示による研究成果の紹介 ◇農産物販売 ◇農産物の加工体験(そば、豆腐) ◇野菜の収穫体験 ◇技術相談 
畜産試験場 (塩尻市片丘) TEL:0263(52)1188 <a href="http://www.pref.nagano.lg.jp/chikusanshiken/index.html">http://www.pref.nagano.lg.jp/chikusanshiken/index.html</a>	10月17日(土) 10:00~15:00	<b>来て 見て 発見！</b> <b>信州の新しい畜産技術</b> ◇パネル展示による研究成果の紹介 ◇場生産牛肉・豚肉・鶏肉の委託販売 ◇場生産豚肉を用いた豚汁の試食 ◇聴診器で牛の心臓の音を聞く体験 ◇試験機材、大型農業機械などの展示 
南信農業試験場 (高森町下市田) TEL:0265(35)2240 <a href="http://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/index.html">http://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/index.html</a>	9月5日(土) 10:00~15:00	<b>行ってみまいか！ 南信農試へ</b> ◇なし、かきの試験ほ場見学スタンプラリー ◇なしの試食、販売 ◇果樹園作業機械の展示・実演 

# 協会だより

## ●農薬等普及展示圃事業に係る巡回検討会（殺菌剤・殺虫剤）を実施しました

6月の除草剤展示圃巡回に続き、殺菌剤・殺虫剤の巡回検討会を、8月7日に東北信地区、25日～26日には中农信地区で、農業技術課、担当専門技術員、病害虫防除所、農業改良普及センター、JA全農長野、関係農薬メーカーの参加を得て実施しました。

本事業は地域における病害虫・雑草等に関わる課題解決と新技術の迅速で効率的な普及を図る目的で普及展示圃を設置するので、今回は23圃場を巡回し、29課題について試験の設置状況を視察し、結果の検討を行いました。

キャベツのコナガ防除試験（佐久）最近のコナガ多発対応に向けた防除剤の検討。



カキ円星落葉病の防除試験（下伊那）特産の市田柿産地で、効率的な体験防除が可能な有望剤を検討。



セルリー斑点病防除試験（諏訪）特産野菜の安定生産には斑点病対策が欠かせない。剤のラインナップ充実が課題。



ブドウべと病の防除試験（松本）重要病害の防除剤ラインナップ充実。果粒の汚れ軽減もポイント。



いちごのハダニ類に対する天敵製剤の効果試験（諏訪）高標高地帯での夏秋イチゴで天敵の働きを期待。



リングうどんこ病・黒星病の防除試験（長野）近年増加のうどんこ病対策試験。



りんごのシンクイムシ類防除試験（上伊那）防除試験を見事に管理された新しい化栽培圃場で検討。



シャクヤクうどんこ病の防除試験（北信）特産作物の高品質生産を目指す。



カーネーションのリゾクトニア菌による立枯の防除試験（上伊那）前年多発したハウスで土壌処理剤を検討。



### 【行事】

- 7月7日 日植防施設調査（高森町）
- 8月7日、25～26日 農薬等普及展示圃巡回検討会（殺菌剤、殺虫剤）
- 8月26日 オリゼメート発売40周年記念講演会（長野市）
- 8月28日 防除基準編成方針検討会議（長野市）

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。  
URLは<http://www.nagano-ppa.jp/>です。